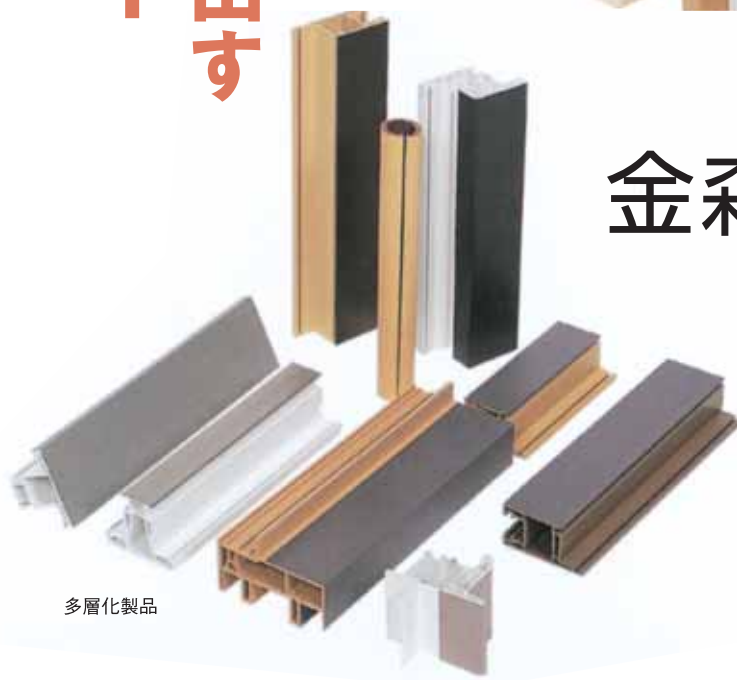


「異形」を作り出す 樹脂マイスター



大型断面製品



多層化製品

金森化学工業株式会社

複雑系樹脂成形の バイオニアメーカー

プラスチックの押出成形をメインに行う金森化学工業。同社が他社と違うのは、複雑な形をした「異形品」や、何層もの樹脂を重ね合わせた「多層化製品」を作る技術を持ち、これを組み合わせた商品開発を行っている点だ。さらに、大きなサイズでありながら安定した形状、寸法精度を持つ成形品「大型プロフィール」を製造できるのも強み。現在、大型プロフィールを手がけられる国内企業は、同社を含め数社しかない。

押出成形は、樹脂を連続して溶融しながら金型を通過させ形を作るプラスチックの製法。単純な形の量産品ならどの企業でも生産可能だが、

複雑な形状の製品を作るには、温度調整や機械操作等に高度な技術とノウハウが必要とされる。多層化製品も同様で、種類の違う樹脂をミリ単位で重ね合わせ平らにしていける技術は、そう簡単に完成できるものではない。同社は、こうした難易度の高い押出成形のバイオニア的存在で、取引先からの「こんなものができないか」というニーズに挑戦し続けている。

例えば、モノレール「ゆりかもめ」のレールに設置されている配線樹脂カバーを製造したのは同社だ。某大手ハウスメーカーの窓に使われている樹脂サッシや、宇宙線検知装置の一部にも同社製のものがある。

金型から作ることで 高品質を維持

このようなハイレベルな技術を支えているのは、金型から製造する自社生産体制だ。金森化学には金森機工というグループ会社があり、工場のすぐそばで金型設計から行っている。「生産テスト後、工場長が金型の製造現場に行き『もっとう作って！』と頻りに交渉していただきますよ」と金森俊晴社長。金型は成形の心臓部だけに、こうしたやりとりが即座に行えるのはメリットだ。そのほか、射出成形、機械製造を専門に行う会社もグループ内にあるため、取引先のあらゆるニーズに対応が可能だ。

同社は平成18年、自社開発の屋上緑化システム「オアシス」で、取得が難しいとされる政府の「新連携事業共同認定」を取得。耐踏圧性、

断熱性、防根性、低メンテナンステータス等をすべて備えた新しい樹脂構造体だ。ほかにも、地下室の防水施工樹脂壁「スマートフォーム」を開発する等、蓄積技術を応用した製品作りを行っている。

技術を習得するのに10年かかるといふ押出成形。工場には職人系の技術者と、データ系の技術者がおり、社員一人ひとりを教育・育成している。今後は、製造したプラスチック部材の二次加工も社内で行える体制を整え、品質のさらなるアップを狙う。

金森化学工業株式会社

Company Profile

住所 〒573-1132
大阪府枚方市招提田近3-21
創業 / 昭和23年5月
設立 / 昭和52年5月
資本金 / 3,000万円
従業員 / 60名 (平成21年1月現在)
TEL / 072-850-7901
FAX / 072-868-7041



金森俊晴さん
代表取締役社長

主な事業内容

プラスチックの
異型押出成形
等

ISO 9001

<http://www.kanamorig.co.jp/kagaku/>